

平成29・30年度 一般社団法人 日本学校歯科医会委嘱

「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」

～望ましい生活習慣の形成を目指す歯・口の健康づくりと歯・口の外傷の防止～

研究発表会指導案

研究主題

自ら課題を見つけ互いに関わり合って、
進んで健康づくりに取り組もうとする子の育成
～歯・口の健康づくりを通して～



平成30年10月31日（水）

岡山県美作市立江見小学校

第1学年 学級活動(2) 指導案

平成30年10月31日(水) 第5校時 1年教室 指導者 宗森 彩香

1 題材名 しっかりかんで 歯っぴーになろう

内容(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

(ウ) 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 児童の実態と題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、男子8名、女子15名(特別支援学級1名含む)の計23名の学級である。本学級の児童は7月に「はのおうさまをまもろう」という授業で、第一大臼歯について取り上げ、第一大臼歯の特徴の一つの「第一大臼歯は噛む力が一番強い。」ということを学習している。6月に実施した、歯・口・食生活に関するアンケートで、保護者のアンケートの結果を見ると、食事をするときによく噛むように声かけをしているという結果が出ているが、子どものアンケートの結果を見るとよく噛んで食べると答えた児童は半分以下という結果であった。この結果から、周りからの声かけはあるが、子ども自身がよく噛んで食べるということを実践できていないことがわかった。給食時の様子を見ていても、残さず全部食べることばかりにとらわれてしまい、よく噛んで食べることができている児童は少ない。「好きな食べ物・嫌いな食べ物は何ですか」というアンケートを児童に実施したところ、好きな食べ物にはアイスクリームやプリン、ジュースなどやわらかくてあまり噛まなくても食べられるものが多く見られた。嫌いな食べ物には、ピーナッツやピーマンなど、かたくてよく噛まなければいけない食べ物が見られた。

(2) 題材設定の理由

現在、食事のメニューや調理法の変化に伴い、あまり噛まなくても飲み込める物が多くなってきている。また、子どもの好む食べ物はアイスクリームやプリンなどやわらかくて食べやすいものが多いため、意識して噛むことが少なくなってきている。よく噛んで食べることは、あごの力を強くしたり、消化を助けたり、脳の働きを促進したりする大切な役割がある。

そこで、低学年のうちから噛むことの大切さを知り、よく噛んで食事をする習慣を身に付けさせたいと考え、本題材を設定した。導入では、エプロンシアターとペープサートを使い、よく噛んで食べないと体によくないことを、視覚的に捉えさせたい。展開では、鏡を見ながら実際に団子を食べ、噛みかたを知らせていく。まとめでは、これから食事をするときを気をつけたいことをめあてに書かせ、実践につなげていきたい。

(3) 本題材の指導で工夫する点や手立て

○体験的な活動の工夫

鏡を見ながら団子を噛む活動をし、鏡であごの動きを見たり、あごを触ったりすることで、「噛む」ということを感じさせる。

○自ら学び合う場の設定

「食事をするときの噛むことのめあて」をそれぞれ書かせ、その後ペア、全体の交流を行う。交流を通して、友達の考えを知り、工夫の幅を広げることができると考える。

3 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自分が決めためあてに、 進んで取り組もうとしている。	よく噛むことと体の健康を結 び付けて考え、各自のめあてを 書いたり、友達に伝えたりして いる。	よく噛むことで体の健康に 結びついていくことを理解し ている。

4 事前の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
6月5日（月） ～ 6月9日（金）	「自分のめあてを決め てよく噛んで食べよう」	○ めあてを持って意識して 噛むようにさせる。	めあてを意識して、よ く噛んで食べることがで きる。（行動観察） 【思考・判断・実践】
6月 19日（火）	「いろいろな食べ物」 ・食べ物の名前や特徴 を知る。 ・食べ物を好き嫌いせ ず食べることで、 体によいことを知 る。	○ いろいろな食べ物の名 前や特徴、役割を知ら せる。	食べ物に興味・関心を 持ち、食べ物の名前を覚 える。 （発言・ワークシート） 【知識・理解】

5 本時のねらい よく噛むことの大切さを知り、しっかり噛んで食べようとする態度を育てる。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導 入	1 アンケートの結果 を見て、課題を把 握する。	○ エプロンシアターをして、食べ物を噛 まずに食べると、体の中で消化されに くいことを知らせる。 ○ しっかり噛んで食べないとどうなっ てしまうかを知らせる。 ● 食べ物を飲み込めない。 ● むし歯になりやすくなる。 ● 便が出にくくなる。 ● あごの力が弱くなる。 ● 太りやすくなる。 ● おなかが痛くなる。 ○ アンケートの結果を知らせる。	
	2 めあてを知る。	○ めあてを知らせる。	
	めあて しっかりかんで げんきに なるう。		
	3 噛むことについて	○ 「噛む」 ことについて知らせる。	

展 開	知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 奥歯を使って噛む。 ● 食べ物をすりつぶし小さくする。 	
	4 鏡を見ながら噛む練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鏡を見ながら噛む練習をさせる。 ○ 実際にするめ天を食べさせ、一緒に数を数えながら噛む練習をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ① 食べ物を口の中に入れ、唇を閉じる。 ② 舌を動かして、食べ物を口の奥に送る。 ③ 奥歯で噛む。 ④ 左右両側で噛む。 ⑤ ゴックンと飲み込む。 ◇ 鏡を見て、噛んでいるときに顔のどこが動いているか気付かせる。 ◇ ペアで交代でするめ天を食べさせ、友だちがするめ天を食べているときの様子を観察させる。 ◇ あごを触らせ、噛むことであごが動いていることに気付かせる。 ◇ こめかみを触らせ、噛むことでこめかみが動いていることに気付かせる。 	
	5 するめ天を食べて気付いたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ するめ天を食べて気付いたことを発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ するめ天がはじめよりやわらかくなりました。 ・ 唾液がたくさん出ました。 ・ あごが疲れました。 ・ 噛むとこめかみが動きました。 ○ もう一度するめ天を噛み、気付きの発表で出たことを確かめさせる。 	
6 しっかり噛んで食べると体によいことを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ しっかり噛んで食べると体によいことを知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ● むし歯になりにくくなる。 ● おいしく食事ができる。 ● 脳の働きをよくする。 ● 体が元気になる。 	よく噛むことが体の健康に結びつくことが理解できる。 (発言) 【知識・理解】	
終	7 自分のめあてをカードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ これから自分が実践したいめあてをカードに書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 奥歯を使って噛みます。 ・ やわらかくなるまで噛みます。 	よく噛むことと体の健康を結び付けて考え、各自のめあてを書いたり、友達に伝えたりす

末		<ul style="list-style-type: none"> ・ やわらかくなるまで噛みます。 ・ 一口に多く入れすぎません。 ○ 自分が書いたためあてをペアで交流させる。 ○ 自分が書いたためあてを発表させる。 	<p>ることができる。 (カード)</p> <p>【思考・判断・実践】</p>
---	--	--	--

7 事後の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
11月1日 ～ 11月7日	「かむかむカード」の実践	学級通信で学習内容をお知らせし、家庭との連携を図る。	自分が決めたためあてに進んで取り組むことができる。 (行動観察) 【関心・意欲・態度】

第2学年 学級活動(2)指導案

平成30年10月31日(水) 第5校時 2年教室 指導者 T1 山下 肇
GT 遠藤 義孝 歯科

- 1 題材名 「しっかり歯みがきをしよう」
学級活動(2)ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 児童の実態と題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は男子10名、女子6名、計16名である。給食では残菜がほとんどなく、食への意欲は高くなっている児童が多い。また、食育の授業を通して、栄養のバランスを考えて食べることが体にとってよいことは学習できている。1年時から本学級の児童のむし歯罹患率は高く、歯を大切にしたり、むし歯を防いだりしようとする意識はあり、取り組みも行ってきているもののまだ不十分だと考える。

(2) 題材設定の理由

本学級の児童は1年時にも糖やカルシウムなどが歯にどんな影響を与えるかは学習している。しかしアンケートで調査してみると、歯につきやすいおやつを口にしていることがわかった。また、食事の後は歯をみがいているがおやつの後には歯をみがいていない児童が多いことも分かった。そこで、改めておやつについて見直し、歯みがきの大切さについて考えさせたいと考え、本題材を設定した。

(3) 本題材の指導で工夫する点や手立て

○体験的な活動の工夫

おやつについて考える場面では、実際に児童が普段食べているおやつを提示して考えることにより、自分の生活と結びつけたいと考える。

○専門的な知識を生かしたGTの指導

普段食べているおやつが歯にどのように影響を及ぼすのか専門的な知識を元に話していただくことで自分の歯や口の中で起こっていることを知り、むし歯にならないために実践していこうとする意識を高めたい。

○自ら学び合う場の設定

班での仲間分けの場面で歯によいかどうかやその理由を話し合うことで、友だちの考えに気付いたり、自分の意見にも自信が持てたりするようにしたい。また、まとめの場面では、友達の意見を聞いたりGTの話の聞いたりすることで自分の歯を守っていくために自分にできることを考えさせたいと考える。

3 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自分の食べているおやつについて思い出し、歯に良いかどうか興味を持つことができる。	歯に良いおやつやその理由について考え、食べた後の歯みがきを意識することができる。	おやつを食べた後の歯みがきの大切さについて理解する。

4 事前の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
6月19日	乳歯と永久歯について知り、汚れが残らないように歯をみがく。	普段のみがき方では汚れが残ってしまうことに気づかせ、自分の口に合ったみがき方を考えさせる。	学習したことに気を付けてみがこうとすることができる。 【関心・意欲・態度】 (頑張りカード)

5 本時のねらい

普段食べているおやつについて考え、おやつを食べた後も歯みがきをする習慣を作ることができる。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入	1 本時のめあてをつかむ。	○いつもどんなおやつを食べているか絵を提示し、おやつと歯の関係について考える本時の学習の方向付けをする。	
みんなが食べるおやつと歯について考えよう。			
展開	2 歯に良いおやつと良くないおやつに分ける。	○いつも食べているおやつが歯に良いかどうかと理由を考えさせる。 ・炭酸飲料は糖が多いから歯に良くない ・するめはよく噛むから歯に良い ・グミはかむけど甘いからわからない	歯に良いおやつやその理由について考え、食べた後の歯みがきを意識することができる。 【思考・判断・実践】 (ワークシート)
	3 仲間分けしたものを発表する。	○各班で良いおやつ悪いおやつの理由を考えさせ、発表させる。 ・炭酸飲料は糖が多いから歯に良く	(ホワイトボード)

展 開	4 仲間分けしたおやつについて話を聞く。	<p>ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポテトチップスは歯につきやすいからよくない <p>○遠藤歯科医の話を聞いて歯に良いおやつ、良くないおやつの特徴を知り、理解を深めさせる。(GT)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖 ・よくかむこと ・歯につきやすいか 	おやつを食べた後の歯みがきの大切さについて理解する。 【知識・理解】
	5 食べた後の歯みがきの大切さについて話を聞く。	○アンケートの結果や仲間分けしたおやつを食べた後の歯みがきの大切さを理解させる。(GT)	
終 末	6 本時のまとめをすすめる。	○食事の後は歯みがきをし、歯を守っていかうとする気持ちを持たせる。	

7 事後の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
10月31日～ 11月6日	頑張りカードを行い振り返りをする。	学級通信で学習内容をお知らせし、家庭との連携を図る。	歯に良いおやつやその理由について考え、食べた後の歯みがきを意識することができる。 【思考・判断・実践】 (頑張りカード)

第3学年 学級活動(2)指導案

平成30年10月31日(水) 第5校時 3年教室 指導者T1 石原 直人
T2 田村 香代(栄養教諭)

1 題材名 「よく噛んで食べよう」
学級活動(2)エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 児童の実態と題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は男子13名、女子6名、計19名である。児童が給食を食べる様子を見てみると、嫌いなものをよく噛まずに飲み込んでしまう児童が見られる。またアンケート調査の結果、クラスの半分以上の11名の児童が、「食べ物をよく噛んで食べますか」の質問項目で「いいえ」と回答していた。さらに、よく食べるおやつは、「チョコレート」「スナック菓子」「プリン」「ゼリー」などが多く、柔らかくて、よく噛まなくても食べられるお菓子である。

これまでに噛むことの大切さは、歯と口の健康週間や保健集会などで伝えてきたが、実践に結びついていないようである。

(2) 題材設定の理由

よく噛むことは、体に様々な良い影響を与える。しかし、児童が日頃口にする食品は、柔らかく、食べやすいものが多く、昔と比べると、よく噛むことを必要としないものが多い。日頃の給食指導では、マナーを守って時間内に残さず食べる事を指導するが、食べ物をしっかり噛むことについては、十分ではない。3年生は、乳歯と永久歯が混ざり合っている時期である。この時期に、しっかりと噛むことを身につけることは、あごの発達や永久歯列の好ましい状態を維持するためにも大切である。そこで、よく噛むことが自分の健康づくりにつながり、おいしく食べるために大切であることを認識し、今までの自分の噛み方を振り返ることが大切であると考えた。

(3) 本題材の指導で工夫する点や手立て

○体験的な活動の工夫

本時の学習では、ごはんの試食体験を通して、「よく噛む」ことの実感を大切にする。噛むとだ液が出ること、噛む回数を増やすことにより「やわらかくなってきた」「甘くなってきた」などの感想から、しっかり噛むと、口の中の様子に変化することに気づかせる。ごはんをよく噛んだ時とそうでないときの違いをペアで交流させる。

○専門的な知識を生かしたT・T指導の工夫

ごはんをよく噛む体験から得た児童の気づきを、栄養教諭が、科学的根拠に基づいて伝えることで、かむことのよさが理解できるようにする。また、よく噛むと味が変わり、おいしく食べることができることについて、ごはんへのベネジクト液の添加で見られる、色の変化を写真で視覚的に示すことで、味わって食べようとする意識を持たせる。

○自ら考え学び合う場の設定

ごはんを試食するときは、黙って試食し、口の中の様子を自分で考えさせる。ペアで意見を交換する時間を設け、自分が気づいたことを交流させる。また、今後食べる時に気をつけることを考える時には、児童が自分の考えを持つ時間を取り、決めたこと発表する場を設定する。

3 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
噛むことのよさが分かり、よく噛んで食べようとしている。	よく噛んで食べることが大切だということに気づき、どうすればよく噛むことができるか考え、実践している。	よく噛むことが体に良い影響を与えることを理解している。

4 事前の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
6月5日(月) ～ 6月9日(金)	「自分のめあてを決めてよくかんで食べよう」 (歯と口の健康カード)	よくかんで食べると体にどんなよいことがあるか知らせ、めあてを持って意識してかむようにさせる。	よくかんで食べると体にどんなよいことがあるか知り、めあてを持って意識してかむことができる。 (歯と口の健康カード) 【思考・判断・実践】

5 本時のねらい

よく噛んで食べることが体によく、おいしく食べるために大切であることを知り、よく噛んで食べようとする態度を育てる。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導 入	1 課題を知る。	○本日のかみかみ献立とそうでない献立の給食写真を提示し、その違いに気づくことによって、噛むことについて意識をむけることができるようにする。 ○アンケート結果を提示し、噛むことができていない現状を確認させる。	

よくかむと、どんなよいことがあるか考えよう。

展	<p>2 食べ物を噛んだ時の口の中の様子を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だ液の量 ・のみこみやすさ ・つぶ ・味 	<p>○実際にごはんを食べさせ、あまり噛まない時とよく噛んだ時の口の中の様子を発表して、意見を交流する。(ペア)</p> <p>【10回の時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲み込むのが大変だった ・30回に比べて味があまりしなかった ・ごはん粒が残っていた <p>【30回の時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲み込みやすかった ・噛んでいるうちにあまくなった ・だ液がたくさん出た ・柔らかくなった 	
開	<p>3 よく噛むと体によいことを考える。</p> <p>4 よく噛むとおいしく食べることが分かる。</p> <p>5 よく噛むことによる体へのよい影響を知る。</p>	<p>○ごはんを噛む体験をもとに、よく噛むと体にどんなよいことがあるかを予想させ、意見を交流させる。(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だ液が多いとむし歯になりにくい。 ・よく噛むとあごが丈夫になる ・甘くなって美味しくなる ・どろどろになって飲み込みやすくなる <p>○噛まないごはんをよく噛んだごはんへのベネジクト液の添加で見られる色の変化を示し、よく噛むと味が変わりおいしく食べることが分かることを知らせる。(T2)</p> <p>○よく噛むことにより、体が元気になることを理解させるために、栄養教諭が説明する。(T2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭の働きがよくなる ・あごが強くなる ・口の中がきれいになる ・むし歯になりにくい ・胃腸がはたらきやすい 	<p>噛むことのよさが分かり、よく噛んで食べようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (発言・ワークシート)</p> <p>よく噛むことが体によい影響を与えることを理解できる。</p> <p>【知識・理解】 (観察・ワークシート)</p>
終末	<p>6 自分の課題に合った「今後よく噛むために気をつけること」を決める。</p>	<p>○ごはんを噛む体験や、栄養教諭の話から、自分自身の課題を確認させ、よく噛んで食べるためにはどのようなことに気をつけたらよいのかを考えることができるようにする。</p>	

7 互いに自分の気をつけることを発表し合う。	○互いのがんばりについて励ましあえるようにする。	
------------------------	--------------------------	--

7 事後の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
11月1日(木) ～ 11月7日(水)	がんばりカードを5日間行い、振り返りをする。	児童がチェックしたカードにコメントをし、児童の励みとする。 家庭からのコメントを書いてもらい、連携しながら取り組む。	よく噛むことの大切さが分かり、自分の食生活を見直し、今後気をつけたいことを実践できる。 (がんばりカード) 【思考・判断・実践】

第4学年 学級活動(2) 指導案

平成30年10月31日(水) 第5校時 4年教室

T1 難波 淳子

GT 駿河 充城 歯科医

1 題材名 「ピカピカの歯を保つには」

学級活動(2) ウ 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 児童の実態と題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は30名である。そのうち2名の児童が特別支援学級に在籍している。児童達は、犬歯や小臼歯への生えかわりの時期を迎えている。5月の歯・口の健康診断の結果では、むし歯の治療が終わっていない児童は、乳歯については5名、永久歯については9名だった。また、乳歯、永久歯のどちらにもむし歯がない児童は16名だった。

児童は、これまでに学級活動でむし歯の原因について調べ学習をしたり、歯口タイムで、自分の歯の健康度チェックをしたりしている。また、自主学習や保健室の毎週行われる「今週の歯のクイズ」等で動物の歯の構造、むし歯と食べ物の関係、等について興味を持って考えることができる積極的な児童が多い。今まで歯科衛生士や養護教諭により指導を受け、歯を大切にしなければいけないことを学習している。さらに、図工の学習で、歯みがきポスターを作り、歯を大切に自分の目標を表明してきた。しかし、給食後の歯みがきについては、3分間砂時計を使ってみがいてはいるが、友だちと話をしながらみがいていたり、力任せにみがいていたりする児童が見受けられる。

(2) 題材設定の理由

この時期は、永久歯の中でも犬歯と小臼歯が生えかわる時期である。同時に正常な歯並びや噛み合わせを育成する重要な時期である。しかし、むし歯ができるメカニズムや歯の状態に合った歯みがき等、正しい歯のみがき方についてはまだ十分な理解はできていない。そこで、むし歯のできるメカニズムについて正しい知識を身につけ、歯の構造や自分の歯の状態に合った正しい歯のみがき方の仕方を定着させたいと考え、この題材を設定した。

(3) 本題材の指導で工夫する点や手立て

○体験的な活動の工夫

児童が作成したそれぞれの歯を並べて模型を作ることで、自分の歯と口の様子を再確認したり、歯の特徴や生え方について復習をしたりさせたい。そして、模型を観察して、みがきにくい部分を見つけさせ、むし歯になりやすい部分についても考えさせたい。

また、実際、透明コップを使って歯みがきをすることを通して、みがくことで汚れが落ちているという実感を持ちながら歯みがきをさせたい。

○専門的な知識を生かしたTTの指導

健康な歯を保つために、正しい歯みがきの仕方について、学校歯科医の専門的な話を聞いたり、資料を見たりすることで、「歯を大切にしていきたい」という意識を持たせたい。また、実際に歯みがきをしている様子を歯科医に見てもらい、専門的なアドバイスや称賛をもらうことで、自分の歯の状態に合った上手な歯みがきの仕方を身に付けさせたい。

○自ら学び合う場の設定

歯の模型作りの際には、これまで学習してきた歯の特徴や生え方について、班ごとに意見を出し合いながら進めることで、いろいろな知識を結集しながら作成することができると思う。また、実際に歯みがきをする活動では、日常の自分のみがき方を振り返り、よりよい歯みがきの仕方について考える時間にしたい。

3 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自分の生活上の問題に関心を持ち、自分の考えを発表し、友達の考えを聞いて質問するなど積極的に話し合いに参加しようとしている。	生活の中でできることを話し合い、自分に合ったよりよい方法などについて考え、判断し、実践している。	むし歯になりやすい歯について考え、むし歯にならないためのよりよい生活や適切な歯のみがき方について、理解している。

4 事前の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
10月19日 (金)	「歯の健康度チェックをしよう」	自分の口の中を見て、スケッチをする。むし歯や治した歯を探す。	【知識・理解】 口の中の歯の生え方や特徴について理解している。 (発言・ワークシート)
10月26日 (金)	「口の中のむし歯菌チェックをしよう」	RDテストをして、口の中の衛生状態を調べる。	【思考・判断・実践】 自分の口の中のむし歯菌の数を調べ、衛生状態を知る。 (ワークシート・観察)
10月29日 (月)	「犬歯、小白歯について知ろう」	生えかわっている犬歯や小白歯の特徴について理解させる。	【知識・理解】 むし歯になりやすい犬歯と小白歯の特徴について理解している。 (発言・ワークシート)

5 本時のねらい

歯のどの部分がむし歯になりやすいかについて考え、むし歯にならない歯のみがき方を練習し、健康な歯を保とうとする意欲を持ち、実践できるようにする。

6 本時の展開

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導 入	1 歯の種類について復習をして、本時のめあてを知る。	○ 前時までの活動を振り返りながら、歯の種類や役割について復習する。	
	めあて むし歯になりやすい歯の部分について考え、ピカピカの歯の保ち方を考えよう。		
展 開	2 歯の模型を作り、むし歯になりやすい部分について考える。	○ 大臼歯、小臼歯、犬歯、切歯の特徴や役割をグループごとに話し合いながら、模型を作らせる。 ○ 模型を作って、歯の生え方や並び方を見て、むし歯になりやすい部分を見つけさせ、各班の意見を発表させる。 ・ 大臼歯 ・ 歯と歯の間 ・ 小臼歯が並んでいるところ	自分の生活上の問題に関心を持ち、自分の考えを発表し、友達の考えを聞いて質問するなど積極的に話し合いに参加しようとしている。 (発言) 【関心・意欲・態度】
	3 歯みがきをする時の大切な点について考える。	○ 駿河歯科医の話聞いて、むし歯を作らない歯みがきの仕方について理解する。 (GT) ・ 鏡を見ながらみがく ・ 順番を決めてみがく ・ 歯を1本1本みがく ・ 大きく動かさない	むし歯になりやすい歯について考え、むし歯にならないためのよりよい生活や適切な歯のみがき方について理解している。 (観察) 【知識・理解】
	4 歯みがきの練習をする。	○ 活動3で学習したことを生かして、実際に歯みがきをする。(GT)	

終 末		○ 学校歯科医にも机間指導に入って専門的アドバイスや称賛をしてもらい、児童が歯みがきの仕方に自信を持たせることができるようにする。	
	5本時のまとめをする。	○これから先、自分の歯を健康に保つためにできることを考え、自分の歯の状態に合った歯みがきを続けていこうとする気持ちを持たせる。 ○班で決めた歯みがきのめあてをカードに書く。	生活の中でできることを話し合い、自分に合ったよりよい方法などについて考え、判断し、実践している。 (発言・めあてカード) 【思考・判断・実践】

7 事後の活動

日時	児童の活動	教師の指導・支援	学習評価
1 1月1日 (木) ～ 1 1月7日 (水)	給食後の歯みがき時、班で決めためあてを意識して、歯みがきをする。	給食後の歯みがき時、班で決めためあてを達成できるよう、声かけやアドバイスをする。	【思考・判断・実践】 生活の中で、自分に合ったよりよい方法などについて考え、判断し、実践している。 (めあてカード)

第5学年 体育科 学習指導案

平成30年10月31日(水) 第5校時 5年教室 指導者 真野 茂

1 単元名 「けがの防止」

2 単元の目標

- ・けがの防止やけがの手当てについて、資料を調べたり、進んで課題解決に取り組んだりすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- ・けがの防止やけがの手当てについて、課題を見つけたり、解決の方法を考えたり、判断したりすることができるようにする。(思考・判断)
- ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気づくこと、的確な判断のもとに安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。また、けがの簡単な手当ては速やかに行う必要があることについて理解できるようにする。(知識・理解)

3 単元の評価規準

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの防止について、教科書や資料などを見たり自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ・けがの防止について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの防止について、教科書や資料を基に課題や解決の方法を見付けたり選んだりするなどして、それらを説明している。 ・けがの防止について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止について理解している。 ・けがの手当てについて理解している。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域のけがについての資料を基に、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・けがの防止についての話合いに積極的に参加している。 ・交通事故や犯罪について、資料を基に、隠れた危険を進んで探そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの事例について、その原因を考えている。 ・事故の起こりそうな場所の原因や解決方法を考えて説明している。 ・交通事故や犯罪を防ぐためのくふうについて事例をもとにその理由や役割について考えて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがや事故は、「人の行動」と「環境」が原因で起こることを理解している。 ・交通事故や犯罪にあわないための行動について理解している。 ・自分でできる簡単な手当てについて、その正しい方法を理解している。

4 指導と評価の計画（全6時間）

時	主な学習活動	評価規準			評価方法
		関心意欲 態度	思考 判断	知識 理解	
1	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料をもとに自分の生活をふり返り、けがの発生や原因について調べる。 けがや事故の発生は、「人の行動」と「環境」が関わっていることを知る。 けがや事故の発生原因について「人の行動」と「環境」にあてはまるかを考えて説明をする。 	○		○	行動観察 発言 話合い 発言・ワークシート
2	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域で起きるけがを防止するにはどうしたらよいか話し合う。 例の場面に潜んでいる危険、予測されるけがや事故について考える。 けがを防止するために、どのように環境が整えられているかを考える。 		○	○	話合い 発言 行動観察 発言 ワークシート
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> 歯や口のけがや、本校の歯や口のけがの発生状況について感じたことを話し合う。 歯や口のけがが起ころうな場面を見つけて話し合い、原因と予防策を考える。 歯や口を守るために、自分にもできることを考える。 		○	○	発言 行動観察 話合い・ワークシート ワークシート 行動観察
4	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の原因を「環境」と「人の行動」から考えると共に、対策について話し合う。 役割演技を通して、自動車の運転手の立場になり、自分自身の行動を実感する。 交通事故の原因とその対策についてまとめる。 	○	○		話合い 行動観察 発言 行動観察 発言 ワークシート
5	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の2枚の絵を比べて気づいたことを発表し合う。 周辺地図を使い、身近にある危険な場所について話し合い、安全マップを作成する。 本時の学習を踏まえて、犯罪被害にあわないように被害を防ぐ行動を考える。 			○	発言 行動観察 話合い マップ 発言 ワークシート

6	<ul style="list-style-type: none"> ・今までにしたけがを思い出し、その時どうしたかを話し合う。 ・教科書のけがの手当ての仕方をもとにけがをした人と手当てをする人に分けて実習をする。 ・けがをしたときの手当ての仕方についてまとめる。(歯や口のけがも含む) 		○	○	話し合い 発言 実技 行動観察 発言 ワークシート
---	--	--	---	---	---------------------------------

5 指導上の立場

○単元観

この単元は、学習指導要領の「G 保健 (2) けがの防止」にあたり、単元の目標は、けがの防止について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てることである。本時では、学校や地域のけがの発展として「歯や口のけが」について扱うが、「歯や口のけが」もその原因としては「人の行動」と「環境」が関わっていて、それを予測することが大切になってくることに気づかせたい。また、この単元では、けがや事故の原因を見つければどこから始まり、学校、地域、交通事故、犯罪被害と展開していき、最後はけがの手当てについても学習する。

○児童観

本学級は、女子13名・男子11名(計24名)のクラスである。児童は第4学年で歯や口の健康については学習しているが、そのけがについてはまだ学習をしていない。また、積極的に運動をしている児童とあまり積極的に運動をしない児童が二極化しており、運動中の歯や口のけがについては意識があまり高いとは言えない。しかし、休み時間には室内で走ったり不注意な行動も見られるので、この単元を通して、歯や口のけがについても原因を分析的に捉え、予測できる児童を育て、これからの学校生活を安全に過ごさせたい。

○指導観

交通事故については、役割演技を通して車の立場を感じさせたり、犯罪被害については、マップを作ることで危険な場所を共通理解し、自分を守る行動について考えやすくさせたい。交通事故や犯罪は命に関わることもあり、また、歯や口のけがで永久歯を失ったら一生もどらない。これらのことを踏まえて、形式的に答えを出す指導ではなく、自分の体や命を大切に自分で守る態度が身につくような指導を心がけたい。そして、学習したことが日常につながっていくような指導をしたい。

○研究主題との関連

本校の研究主題は、「自ら課題を見つけ互いに関わり合って、進んで健康づくりに取り組もうとする子の育成～歯と口の健康づくりを通して～」である。本校では、学習に興味関心をもって取り組める児童が多い中、主体性にやや欠けていたり、学習内容を自分のこととしてとらえられていなかったりする児童も見られる。したがって、ペア学習・グループ学習で友だちと関わることや、ユニバーサルデザイン教育を取り入れ「わかる・できる授業」に改善していく中で、自らの健康づくりに目を向けさせていくのがねらいである。

本単元でも、ペア学習や話し合いなどの活動を多く取り入れたり、視覚化・焦点化・共有化を生かした授業の展開を工夫したり、役割になって演じる等の動作を伴う理解のさせ方を意図的に取り入れたりといろいろな手法を使い、児童が身の回りのけがに課題意識をもち、意欲的にけがの防止に取り組んでいけるようにしたい。

6 本時案（第3時）

(1) 本時の目標

歯と口のけがについて知り、けがが起こりやすい場所と原因を考え、予防できるようにする。また、歯や口を守るために自分にもできることを考える。

(2) 展開

主なねらい・学習活動	教師の指導（○）・支援（◇）	評価規準及び評価方法
<p>1. 歯や口のけがについて知っていることを発表する。</p> <p>2. 江見小のけがの発生状況を知る。</p> <p>その中で歯と口のけがに注目する。</p> <p>3. けがや事故を防ぐには何が大切だったか思い出す。</p> <p>4. 挿絵の中の危険なところについてグループで考える。</p> <p>5. 「情報交換大使ゲーム」（意見交換）をする。 【グループの代表が模造紙を持って他のグループのところに行く】 ↓ 【移動先のグループは代表者の説明を聞く】</p>	<p>○歯や口のけがにはどのようなものがあるか考えさせる。 ・歯が欠ける・歯が折れる・歯が抜ける ・口の中や唇を切る。 ◇普段の生活と結びつけて考えられるように助言する。</p> <p>○江見小のけが全体のうち、かくされているのはどんなけがかを考えさせる。 ◇事前にデータをまとめて、分かりやすくしておく。 ◇歯や口のけがのデータに注目し、江見小の歯や口のけがについて思ったことをワークシートに書かせる。 ○わりと起きていることを確認する。 ◇「江見小を歯や口のけがから守ろう！」ということを働きかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 歯や口のけがの予防の仕方を考えよう。</p> </div> <p>○これまでの保健の学習で、けがや事故を防ぐには何が大切だったか思い出させる。 ◇「人の行動」「環境」「予測すること」をキーワードとして児童から引き出す。</p> <p>○指定された場面について、グループでけがの様子（「どこで」「どうして」「どんなけがをする」）と、けがの原因、防ぐ方法を模造紙にまとめさせる。 ◇早くできた班には、もう1つ自由に場面を選んで書かせる。 ◇活動が進まないグループには、歯や口のどんなけがが起こるか問いかける。 ○けがの原因と防ぐ方法については、付箋に書いて貼らせる</p> <p>○グループの代表（情報交換大使）を決めて、それぞれの役割を確認させる。</p> <p>○グループの代表に自分たちのグループの意見を簡単に発表させる。（2分間） ◇代表の話し方を決めて、スムーズに説明ができるようにさせる。</p> <p>○代表以外の児童には、回ってきた情報交換大使の説明をしっかりと聞くようにさせる。 ◇自分の考えと比べながら聞くことができるように助言する。</p>	<p>【思考・判断】 歯や口のけがが起こりそうな場面が分かり、話し合いを通してその原因を防ぐ方法を考え、表現することができる。 〔話し合い・ワークシート〕</p>

<p>↓</p> <p>【「けがの原因」と「防ぐ方法」に付け加えをする】 《これを2回する》</p> <p>↓</p> <p>【グループの代表は自分のグループに戻り付け加えてもらった意見を紹介する】</p> <p>6. 歯や口のけがの発生と防止について確認する。</p> <p>7. 歯や口を守るために自分でもできることを考えて発表する。（わたしの「歯や口のけが0宣言！」）</p> <p>8. 今日の学習の振り返りをする。</p>	<p>○ 1分間で、「けがの原因」と「防ぐ方法」について付け加えがあれば各自付箋に書いて貼らせる。</p> <p>◇ 付け加えてもらう付箋は別の色にして区別をする。</p> <p>○ グループの代表は付け加えてもらった意見をみんなに説明する。</p> <p>○ 原因と防ぐ方法について気づくことはないか話し合わせる。</p> <p>○ 「けがの原因」の付箋を種類別に2つに分けさせる。</p> <p>○ 「防ぐ方法」では、どんなことが大切か問いかける。</p> <p>○ 歯や口のけがについて、これまでに学習した学校や地域で起きるけがと比べてどうか考えさせる。</p> <p>◇ 原因が「人の行動」と「環境」につながることに気づかせる。</p> <p>◇ 歯や口のけがも、「予測すること」が大事なことを押さえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ</p> <p>歯や口のけがも、人の行動と環境に気をつけて予測すると、防ぐことができる。</p> </div> <p>○ 大切な歯や口をけがから守るために自分でもできることをワークシートに書かせる。</p> <p>◇ 普段の自分のことに戻って考えさせる。</p> <p>◇ キーワードにつながる部分を押さえる。</p> <p>◇ 歯や口のけがや事故は必ず周囲の人に知らせ、出血が無くても歯に負担がかかった時には先生や保健室の先生に伝えることを確認する。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>歯や口をけがから守るために、自分にもできることが分かる。</p> <p>[ワークシート・行動観察]</p>
--	---	---

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿の例

歯や口のけがの起こりそうな場面が分かり、それを防ぐために「人の行動」と「環境」の両面から危険を予測して自分の行動の仕方につなげて考えることができる。また、歯や口を守るために、自分にもできることを理解している。

1 単元名 自分の健康な生活を考えよう

2 単元について

(1)単元設定の理由

学習指導要領では、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本とし、豊かな人間性とたくましい体を育むための教育を推進することを挙げている。また、学校における歯・口の健康づくりの意義は、適切な学習と指導による健康観と生涯にわたってセルフコントロールできる基礎を養うことである。

歯と口の健康課題は、自分で見ることができると同時に、歯が生え替わったり萌出したりすることを体験できるので興味・関心を持ちやすく、題材として有効である。また、歯・口の機能は、生活を豊かにする観点からも自分で高めていくことができ、将来にわたって楽しく健康な生活をするにもつながっている。

本学級の児童は、低学年ではむし歯予防のブラッシング指導の習慣化を図る学習をしている。また、昨年度は学級活動で「むし歯の原因とその予防」、保健学習で「けがの防止」について学習をしており、歯と口の健康に対する知識が身につけてきた。

そこで、今年度の総合的な学習の時間を使い、他教科との関連を図りながら健康づくりを歯と口の側面から考え、ヘルスプロモーションの考えに基づいた実践ができるように本単元を設定した。

(2)児童の実態

本学級の児童は20名（特別支援学級在籍2名含）である。5月の歯科検診の結果では、罹患率は20%で比較的少ない。また、治療率は100%で保護者のむし歯の治療に対する意識も高い。給食後の歯みがきでは3分間砂時計を使ったり、透明コップで汚れが落ちているかの確認をしたりするなど、ブラッシングに対する関心も高く意欲も感じられる。

しかし、学習した内容の必要性を頭では理解できているが、実践まで伴わないケースも見られる。学習で得た知識を、自ら健康な生活に結びつけ実践していこうとするヘルスプロモーションの考え方が身につけていないからではないかと考える。

(3)工夫する点や手立て

○自ら学び合う場の設定

歯と口に関する調べ学習を進めることによって知識を深め、アンケート等から実態を把握して自ら問題点を見つけさせたい。そして、パネルディスカッションに参加することで、さらなる問題点に気づき、健康な生活について深く考えさせたい。

また、パネルディスカッションで明らかになった問題点や解決策を参考にブレスト会議に参加し、歯と口に関わる健康な生活を送るための様々なアイデアを考え実践へと結びつけたい。

3 単元の目標

- ・自分の生活を振り返りながら、歯と口の健康に関わる問題点や解決策を進んで調べたり

考えたりし、わかりやすく伝えることができる。

- ・調べる活動や発表会などを通して学習したことをもとに、これからの健康づくりを実践していこうとする態度を養う。

4 単元の評価規準

評価の観点	主体的な学習態度	表現力	課題を設定する力	課題を追究する力
評価の規準	書籍やインターネットで進んで調べる。 大切な事柄をメモをとりながら聞く。	資料を効果的に使ってまとめる。 伝えたいことを的確に伝える。	健康な生活と歯と口についての関わりについて関心をもち、課題を見つける。	得た知識と自分の生活を照らし合わせて、解決策を考える。

5 指導と評価の計画（全7時間）

小単元名 (時数)	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法
1 問題点を探ろう	2	生活アンケートの結果や、昨年度までに学習した歯みがき、食事、おやつを取り方などの中から問題点を見つけ、健康な生活を送るために自分が特に興味を持った事項を決める。	課題設定する力 健康な生活と歯と口についての関わりについて関心をもち、課題を見つける。(ワークシート)
2 調べよう	4	それぞれの問題解決のための調べ学習をする。 ・歯みがき・噛むこと ・おやつを取り方	主体的な学習態度 書籍やインターネットで調べる。 表現力 自分たちの主張を伝えるための資料を作る。 聞き手にわかりやすくまとめる。(資料)
3 発表しよう 考えよう	1 本 時	調べた資料を効果的に使って考えを伝える。 これからの健康な生活を考える。	表現力 自分の考えを根拠を示しながら伝える。(資料・発表メモ・発表) 主体的な学習態度 大切な事柄をメモをとりながら聞く。(発表メモ・ワークシート) 課題を追究する力 得た知識と自分の生活を照らし合わせて、解決策を考えることができる。

6 本時案(第3小单元 第1時)

(1) 本時の目標

パネルディスカッションでの意見交換を通して問題点を見つけ、これからの健康な生活を送る上で、自分が続けることができる目標を持ち、実践していこうとする態度を養う。

(2) 展開

学習内容	教師の指導・支援	学習評価
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>2 パネルディスカッションを行う。</p> <p>(1)パネリストがまとめた考えを発表する。</p> <p>(2)フロアとパネリストとの質疑応答をする。</p> <p>(3)全体の意見交換をする。</p> <p>4 ブレスト会議をする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて</p> <p>将来にわたって健康な生活を送るために大切なことについて意見交流しよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>テーマ</p> <p>健康な生活を送るためにはどうするか。～歯と口から～</p> </div> <p>○意見交流の際に、気をつけることを確認する。 (自分の考えと比べながら聞き、大切なことをメモする。根拠をはっきりさせる。</p> <p>(パネリストの主張)</p> <p>①食後3回忘れずに歯みがきをしよう。 ブラシの持ち方・みがき方</p> <p>②食事の時にしっかり噛もう。 噛むことの利点</p> <p>③おやつを取り方を考えよう。 おやつの内容・食後の歯みがき</p> <p>○フロアには、疑問や課題・自分の意見をメモすることを確認する。</p> <p>○考えにくい児童に対しては、テーマに振り返り、具体的な方法を考えることができるようにする。</p> <p>○根拠をはっきりさせることができるように、事前に考えを持たせておく。</p> <p>○意見交換を受け、グループでブレスト会議をし、今後の生活の実践に生かしていけるアイディアを考えさせる。</p>	<p>【主体的な学習態度】 大切な事柄をメモをとりながら聞く。(発表メモ)</p> <p>【表現力】 伝えたいことを的確に伝える。(資料・発表メモ・発表)</p> <p>【課題を追究する力】 得た知識と自分の生活を照らし合わせて、解決策を考</p>

<p>5 まとめをする。</p>	<p>○多くのアイデアを出すことがブレ スト会議では大切であることを確認 する。</p> <p>○パネルディスカッションやブレ スト会議から、将来にわたって健康な生 活を送るために自分で続けていく具 体的な方法をまとめさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 自分の生活を振り返り、問題点を見 つけ、健康な生活を送るためにでき ることを今後も続けていこう。</p> </div>	<p>える。(観察・付 箋)</p> <p>【課題を追究する力】 得た知識と自分の 生活を照らし合わ せて、解決策を考 える。(ワークシ ート)</p>
-------------------	---	--